

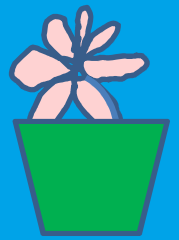
http://www

Happy - Hamakan-News

浜医看護学 2014. 8 月

臨時増刊号 夏

浜田医療センター附属看護学校



暑中お見舞い申し上げます。

1年生2泊3日のふるさと体験村やさかの宿泊研修特集をお届けします。

大自然の中で自己と向き合う！

本当の仲間になった！！

大自然の中ではちっぽけな私。
自然の中では協力して自らや
他者と協力していくことができました。
専門職者として、自己と向き合い
他者のあたたかさや
グループ活動大切さを学びました。



宿泊研修では、グループ活動を基本にして、看護の専門職者として態度や姿勢の育成を目的としました。この3日間の目標は次の6点です。

1. 自然の生活に適応する能力を育成する
2. 良い習慣を育て実践させる
3. 健康のための知識と経験を与える
4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育成する
5. 良き友人を見出す機会を与え、友情を深める方法を学ばせる
6. 民主的なグループ体験を通じて、社会に於ける責任感を養う

独立行政法人国立病院機構浜田医療センター附属看護学校

697-8512 島根県浜田市浅井町 777-12

0855-28-7788

mail : hiyoko1@lime.ocn.ne.jp

<http://www.hamakan-nh.jp/>

発行責任者 石黒真吾

編集責任者 中田佳代子

編集 花子紀子、田儀千代美、藤井光輝、隈部直子、
小田川良子、畑中美保、豊福瑞穂、三家本八千代
岩成美樹、松野由香、金山和正



私たち62期生は、7月6日から7月8日の2泊3日間
弥栄ふるさと体験村で宿泊研修を行いました。この宿泊研修
の目的は、自己と他者を知り、自分を見つめなおす。

また、クラスの親睦を図り、看護師としての態度を身に着
けるでした。

運営委員は研修の1ヵ月前から企画を進めてきました。
中々全員で集まり話し合うことができず、また自分がまとめ
ることができなかつたので企画を思うように進めることが
できませんでした。そのような中で上手く3日間進めることが
不安でした。

初日はクラスのみんなへの指示や予定をスムーズに運営を
することができずに反省点のほうが多くありました。しかし、
1日の予定が終わった後に運営委員と各班のリーダーで1日
の振り返りを行いました。そこで2日目は、運営委員と班長

との連携を強化することや予定を細かく決める、食事の準備と片付けの際は片付けと調理、物品
の運搬など、役割をわかりやすくするなど改善することにしました。2日目からは雨が降った
りなどアクシデントもありましたが運営委員と班長だけでなくクラスの全員が協力して、食事の
準備やレクリエーションを行うことが出来ました。

3日間を振り返り、クラスの全員が協力することによって研修前より全員の絆が深まったよう
に思います。そして慣れない環境の中で集団行動を行うことにより自己と他者を知ることができ、
この研修の目的を十分に達成できたと思います。

この研修を意義のある研修に出来たのは、企画と司会をつまづきながらも向上心を持ってやり
遂げてくれた運営委員と班長、そんな自分たちに的確な助言をしてくださった先生方、研修をい
いものにしようと運営委員と班長を支えてくれたクラス全員の協力があったからこそだと思います。
感謝の気持ちをもってこれからの学校生活に活かしていきたいと思います。



物事を成し遂げる重要性

宿泊研修振り返り（リーダー）1番 井田 菖太



私達の班は今回の研修の班目標として次の2つを考えました。1つめは「分け隔たりなく皆と協力して仲を深める」という目標をたてた理由は「これから社会へ出た時に、団体行動をしていく中でどう人と関わるべきかを学ぶため」で、2つめの「すみやかに行動する」の理由は「団体行動において、時間を守って行動することは必要であるため」ということでした。

私達は「そうめん流し・準備」と「伝言ゲーム」の企画担当（「伝言ゲーム」は時間の都合上中止になった）で、その企画のなかで、2つの目標の達成の為、次のようなことをしました。まず1つめの「分け隔たりなく皆と協力して仲を深める」という目標達成のために、「そうめん流し・準備」で結果的にはあるが皆で声をかけあい協力して食事をし、仲を深められるようにできた。2つめの「すみやかに行動する」という目標達成のためには、具体的な人数、

時間、方法を指示することで無駄な時間を削り効率よく、すみやかに行動ができるようにした。班の反省点としては、具体的な人数、時間、方法を支持することができたのは「そうめん流し」の時だけで「そうめん流し準備」の時は指示の方法などが分からず全体を困らせてしまったことである。良かった点は「そうめん流し」の時、急に場所が変わったりしたが臨機応変に対応できたことである。個人的反省としては、施設の方にもっと具体的に内容を確認して班のメンバーに伝えることができれば良かったことと、頭の中で一度イメージしてみることをすれば良かったことと、頭の中で一度イメージしてみることをすれば良かったと思う。

最後にリーダーをしてみて、リーダーシップを発揮することの大変さと協力して物事を成し遂げることの重要性が分かった。



支えてもらっているということ

宿泊研修のリーダー振り返り 6 グループ 表美沙紀

今回の宿泊研修での運営委員、グループのリーダーはとても大切な役割だったと思う。運営委員は、宿泊研修の前々から計画などをこと細かく決めたり、研修先の方々と連絡を取り合い情報のずれなどが無いようにまた、研修がスムーズに行えるようにしっかりと調整を取るなどしてみんなが楽しく有意義な時間が過ごせたり、今回の実習目的・目標が達成できるようにとても一生懸命行われていたと思うことができた。各グループのリーダーたちは、自分たちが企画したレクリエーションが円滑にみんなで楽しめ、今回の目的・目標が達成できるように考えた自分たちの目標が達成できるようにと考えたりしておかげで研修では目的・目標を達成できつつも楽しい研修にすることができたと思う。

だが、リーダーの役割とは簡単そうに見えてなかなか難しいものだった。みんなをまとめるということの大変さとそのほかにも、全体に自分たちの意見や考えを伝えるということの難しさを知ることができたと思う。また、みんなより先回りして一歩先やもしものことなどを考えなければならないのが、私は一番のむずかしさだと感じた。

研修の1日ごとの終わりには運営委員とリーダーの集まりがあり全体や自分たちの反省を行う。そこでは、自分たちのできていなかった点などが多く上げられ自分たちの視野の狭さや考えの浅さなどを思い知ることができ、もう少し全体にスムーズに動いてもらうにはどうしたらいいのだろうと深く考えるいい機会にもなった。そして、研修を重ねるごとに次第に反省よりもよかった点などの気づきのほうが多くなっていくことができたと思う。これはただ単にリーダーの頑張りだけでなく同じグループの人達の支えやサポート、みんなの協力などがあるうえでできているのだと感じることができた。

この研修でリーダーという立場を体験させていただくことで、まとめることの大変さのほかに仲間の大切さやいろいろな面で支えてもらっているということの存在の大きさを改めて学ぶことができたのでとてもいい研修になったと思う。そして今後にも今回の学びを生かしていきたいと思った。



私は、宿泊研修で班のリーダーという役職を体験することができた。最初は、リーダーというものがどんな仕事をするのかがあまりよく分かっていなかった私は、研修前の準備などでリーダーとしての仕事で何をしたいのか分からず、何も動けずにいた。また、私は宿泊で研修の運営係も同時に担っていたため、正直なところ、運営係を優先していた。そして、実際に研修で活動してみると、分からないことが沢山あり、自分がどれだけ軽い気持ちでリーダーという仕事に望んでいたかという現実をみて、反省と後悔という気持ちでいっぱいだった。しかし、運営係とリーダーという2つの仕事を同時に担ったことにより、伝達ミスなどは特に考えさせられ、その中での自分の学びが大きかったと思う。運営係とリーダーでコンタクトを図る際、自分は運営係で内容を理解しているため、他のリーダーと話をする時に、分かっている体で話を進めてうまくいかなかったこともあった。だから、運営係とリーダーの連携、リーダーと班のメンバーとの連携はとても重要だということを知った。また、その中でも、運営係と班のメンバーとの連携はとても重要だということを知った。また、その中でも、運営係と班のメンバーの間に入るリーダーは連携を図るうえで特に重要な人物だと思った。そして、リーダーとして実際に動いた3日間で1日1日が私の中での小さな成長の積み重ねだった。

まず、1日約2回集まり、意見を出し合ったリーダー会では、1日目は自分の意見があっても上手に意見を言おうとして、なかなか意見をまとめて口に出すことが出来ずにいたが、回を重ねるごとに、教育主事の中田先生に言われた、「何でも口にしよう。反省会だからといって批判ばかりするのではなく、みんな頑張っているのだから、良い所は誉めて、賛成したことは口に出そう。」ということ意識すると自分の意見を口に出せるようになったことが私の大きな学びである。62期生は、研修前の普段の学校生活でなかなか意見が出来なかったり、発表者への言葉や返事がなかった。しかし、研修中に自分が学んだことをすぐに実行することが大切だと思い、人が意見を発表した時には、拍手や返事をすぐに返すように心掛けるようにしている。これは、常識であると思うが、出来ていなかったのが現実であったために、研修の時に学べてよかったと思っている。これにより、研修後では、クラスの雰囲気良くなったと感じた。この宿泊研修での体験とリーダーの体験を忘れずに、これからも周りの人を気遣い、人との関わりやコミュニケーションを大切にしていこうと決意した。





7月6日～8日まで弥栄で2泊3日の宿泊研修を行いました。

活動グループのメンバーが発表された時に本当に自分がリーダーで大丈夫なのか不安になりました。しかし、グループのメンバーが助けてくれたので協力して活動することが出来ました。

最初に自分のグループが担当したバーベキューでは、準備や片付けの細かい具体的な指示を出していなかったためオリエンテーションを始める前に活動を始めていたり片付けで手持ちご無沙汰な人がいたり、メリハリのない活動になってしまいました。事前にグループごとで作業の振り分けをしていなかったことやスタッフさんとの打ち合わせがうまくいっていなかったことなどが原因でした。

私自身も班のメンバーに頼っていたところがあり、反省すべき点でした。ですが、バーベキューの目標だった親睦を深めるというのは、食事をしながら会話が弾んでいたり普段あまり話をしない人とも話ができたりと達成できたと思います。その日のリーダー会議で反省点を述べ、次にうまくするためにはどうしたらうまくいくかを考えました。そして最後に担当したヤマメのつかみ取りでは、リーダー会議での反省を踏まえて、グループのメンバーに協力してもらったり、前もって場所の下見に行ったり、スタッフの方に準備することなどを聞いたりしたおかげでちゃんと具体的な指示を出すことができました。そしてスムーズに活動を行うことが出来ました。また、ヤマメのつかみ取りの目標にしていたほかの人と協力して捕まえるということはなかなかヤマメを捕まえることができない人を手伝っていたので達成できたと思います。自分がリーダーとして何かを指示することなどは苦手でしたが、この研修を通して少し自信ができました。この2泊3日の宿泊研修は有意義な充実したものにすることが出来ました。

相談すること、協力することの大切さ

宿泊研修 リーダーをして
山岡麻衣

宿泊研修の班のリーダーをやらしてもらって、私は研修前よりも成長できたと思う。研修前の準備の段階では、リーダーという自覚があまりなかった。なので、リーダーになって嫌だなという気持ちもなかった。しかし、研修が始まるとリーダー中心となって進めていかななくてはならず、「こんなみんなをまとめるような仕事私にはできない」とここにきてこの宿泊研修の班のリーダーになったという役割の重さを感じた。

私たちの班は、山登りと、ジェスチャーゲームの担当で、準備の段階ではみんなで協力し自分たちのなかでは完璧に準備できたと思っていた。しかし、当日は雨で山登りが出来なくなった。行く前から雨で山登り出来なくなるというのは予想できていたのに、その時はどうしたらいいのかを、班のなかだけで話し合い運営委員には相談しなかった。その結果私たちの準備不足でみんなに迷惑をかけてしまった。これもリーダーとして私が、計画をもっとつめてやっていたら起こらなかったことで、リーダーの責任をととても感じた。

この失敗を次のジェスチャーゲームにつなげた。班長会で言われた反省点を班のみんなに伝え、事前にもう一度班のなかでの確認をした。すると、きちんとみんなに今からやることを説明し、協力してやることができた。これは山登りが無くなって、バス移動になったときにはなかったことだからすごく嬉しかった。バス移動は私自身きちんと内容を把握できていない部分が多く、自分一人でリーダーだから何とかしないと、と思い相談できずひとりでやろうと頑張っていた。しかしジェスチャーゲームで、みんなで協力してやってみて、自分一人ではできない事や、自分なら思いつかないようなことも、みんなと協力することでたくさんみえてくることを実感した。リーダーとして責任をもつことも大事だが、同じくらいに同じ班のメンバーと協力することの大切さを実感した。

初めは嫌だと思っていた、リーダーという役目だったが、この体験を通して大変だったこと以上に得ることが多く、リーダーという仕事をやらせてもらったことに感謝したいと思う。また、なにかのリーダーをやる機会があったらこの研修で学んだことを必ず活かしていきたい。





私たちの班は、1日目のバーベキューへの紹介状作りと3日目に実施した焼きそば作りを担当した。焼きそば作りは、焼きそばを作る班・会場を準備する班・片付けの班に分かれて活動した。それぞれの班に弥栄の自然を守る会のメンバーがいたので大きな混乱がないまま無事に終わることができた。目標などは設定することができなかつたが、3日目ということもありみんな自分から仕事を見つけて動くことができていた。準備の班は、仕事を分担してスムーズに進んでいった。会場準備の班は準備の様子を見に行くことができなかったが、副リーダーが指示を出してやってくれたので、時間内に準備することができた。片付けの班は、ふるさと体験村の人に聞きながら進めることができた。

私たちの班の目標は“協力する”と“来た時よりも美しく”だった。みんなの準備や片付けが終わった後に見回りをし、きれいにしようと努力することができた。協力することについてはチームのみんなで声を掛け合うことでチーム内での意見がまとまり、みんなへの指示もすばやくできたので達成できたと思う。これは、メンバーのみんなはリーダーの指示を聞いてから動くのではなく、自分で動いてくれたのでリーダーが指示出さなくて済むことが多かった。スムーズにすすめることができたのはこのおかげだと思う。

夜に行われた実行委員とリーダーで行われた会議では毎日課題が出てきていたが、それぞれの班がよく考えてイベントを実施していたのがよくわかった。共通して出てきた課題が、情報の伝達についてメンバーに伝えるのを忘れていたなどがあり、それが原因でクラスのみんなに情報が伝わらなかったのが、よく話し合うことが大切だと感じた。

今回の研修では、リーダーとしての責任やチームでの連携について学ぶことができたのでこれを日頃の係り活動やグループ活動に活かしていきたい。

見通しをもって行動すること、 具体的にイメージすること

桜江～チェリエ～

◎大谷涼太郎 ○末益菜央

田平敦子 羽田杜史子

松浦佳耶 本山翔輝

今回の宿泊研修で私たちの班は、1日目のバーベキューと3日目のヤマメのつかみ取りの企画を担当した。

1日目のバーベキューの目標は3つあった。ひとつ目はクラスの親睦を深める、2つ目は周りのグループと協力する3つ目は食中毒に気を付けるであった。

それぞれの目標の達成については、班をくじで決めたことによりあまり関わったことがない人とも親睦を深めることができたのではないかと感じた。また、教員とも交流ができたのも良い点だと考える。クラスの中でバーベキューの準備、片付けを協力して行う事ができたように見えた。最後に事前に呼びかけたことによりしっかり火が通っているか確認してから食べていたので食中毒になった人はいなかった。よって、目標は達成できたと考える。

しかし、バーベキューでは私たち担当者に多くの反省点があった。とくに、バーベキューの担当者であるという自覚が足りなかった。バーベキューハウスの下見をしなかったため、クラスの人を誘導したり、指示をだしたりということが出来なかった。また、私たちの班の中で自分の役割を分かっている人と分かっている人に分かれてしまった。

3日目のヤマメのつかみ取りではバーベキューのときの反省点を活かし、ヤマメのつかみ取りをする川の下見をした。その結果、つかみ取りの様子を具体的にイメージすることができたので班を前半と後半で分けるなど工夫することができた。また、1日目のように役割が分からない人ができないように事前に班の役割を話し合った。その結果、班員の全員が役割を持つことができた。

ヤマメのつかみ取りの目標は協力することの大切さを知るであった。目標についてはヤマメを捕まえるために追い込みをしていたり、魚が苦手な人のために一緒に捕まえたりする姿が見られたので、目標を達成することができたと考える。

今回の宿泊研修で企画をしたことにより、見通しをもって行動すること、具体的にイメージすることの大切さを学んだ。この学びは今後の学校生活で提出物の締め切りを守ること、テスト前日に慌てなくても良いように計画的に勉強することにつながると思う。この学びを活かしながら学校生活を送りたい。



日常の生活をできて いることを感謝

宿泊研修での企画の振り返り

チーム名 MAAAAM

メンバー ◎山岡麻衣 ○橋坂彩
前田素美 岸歩美
奥田彩華 前田葵

私たちが今回の宿泊研修で担当した企画は「山登り」と「ジェスチャーゲーム」だった。しかし、山登り当日はあいにくの雨で中止となったため、変更してバスで弥栄を見学することになった。

まず、私たちは「山登り」を企画した時、雨天となったらどうするかということを考えていなかった。そのため、山登りが中止となったときにメンバーみんなはどのように動けばいいかわからずいた。このことから、企画を立てるときにはもしものことを考えておくべきだと学んだ。バスで弥栄を見学することが決まってからは、クラスみんなが協力してくれたおかげで素早くバスに乗ることができた。それから、目的地に着いたときには最初に降りた人が傘をもって雨で濡れないようにしてくれた人もいた。しかし、油断をすると私語が多くなることがあったので、担当の役割としてもっとリーダーシップをとることが必要だったと反省した。バスで弥栄を見学したところは、機織り体験と牧場だった。機織りでは実際に体験してみた人がいて、また新たに浜田の伝統工芸を知りたいいい機会となった。牧場では生きている牛を直接目で見て、普段普通に食べたり飲んだりして生活ができていことに感謝の気持ちをもつことができた。

それから「ジェスチャーゲーム」で良かったことは初めに設定されていた時間通りに進めることができたということだ。ジェスチャーゲームとはグループ1人にお題を出して他のグループのメンバーに何を表しているのかを当ててもらうゲームである。お題を出された人はどのようにジェスチャーをすれば伝わるか一生懸命で、細かい部分の表現の仕方にそれぞれ違いがあり、みんながとても楽しんでいたように見えた。

学んだことを看護の視点に変えて考えてみると、やはりもしものことを考えて行動することは必要になってくるとも思う。なぜなら、患者の様態は看護師が思っているように良い方向に進んでいくだけではないからだ。また、限られた時間の中で終わらせる計画を立てることや、計画の中で時間に余裕を持たせることも必要だと思った。今回の宿泊研修でクラスメイトと長い時間を過ごし、協力することができて無事終えることができた。これからも協力しないとできないことも増えると思うので、この経験をこれからの看護の勉強にも生かしていきたいと思う。

メンバー全員の協力

弥栄の自然を守る会

◎藤原拓也 ○勝部甲二郎

井塚光希 岩佐紗弥加

加藤愛 林久美子

私たちは今回の弥栄ふるさと体験村での宿泊研修で焼きそばづくりを担当した。この焼きそばづくりは準備または料理・片付けといったように分担して実施した。急遽今回の係がわりあてられたこともあったのだが、リーダーが迅速に動いてくれて班に連絡をまわしてくれたことで大きな問題も起こらずに焼きそばづくりが進行できた。そしてクラスみんなが自分の役割を自主的に・積極的に一生懸命してくれたことが目立った。この研修では食事作りが大変多く、私たちの班以外にはたこやき・バーベキュー・流しそうめんなどがあり様々な食事作りの担当があった。クラス全体的にそれぞれの班にたくさんの協力がみられたが、私たちの班が特に努力した面が大きく分けて2つある。

一つは、リーダーに指示される前に積極的に全員が自分の仕事を考えて行動したことだ。会場のテーブルを班の人数分設置したり、調理室では麺が入った袋の量を考えてわけること・材料を切ること・調理器具の用意をしていくことなどにわけるなど様々な仕事を自主的にした。焼きそば作りのほかの班との食事作りをする上でのちがった点は、コンロが足りない点や、そのことによりいっぺんに焼きそばをつくっていくことが難しいという面だった。今回の研修では食べるが多かったのもみんなは空腹状態で食事をとることが少なかったかもしれないが、焼きそば作りは昼ご飯で、ヤマメ釣りが午前であり、朝ご飯から比較的時間があいていたのでおなかをすかせている人も多かったと思う。そのなかでなるべく急いでつくろうというみんなのがんばりであり時間をかけずにつくることのできた。

もう一つは、確認を念入りにしたことである。2泊3日のうちでの最終日の昼ご飯という大事なイベントを失敗させることのないように、材料が足りているかどうか・包丁で手を怪我している人はいないかの確認を何度かメンバー内で伝達した。また、麺をゆでるかわりに熱湯につけておかなければいけなかったので高熱の湯がでるようになっていたことにより、調理室にいる人には麺をゆでる係の人以外は湯はつかわないようにという呼びかけをしたこと・最後にボイラーが切られているかを確認することを入念にした。

まだ入学して3ヶ月ちょっとのなかでメンバー全員が協力して焼きそば作りができたと考える。





企画を通しての振り返りでよかった点をあげると、効率よく行うために、各々が指示をすすんで出して動いていたところと、全体で協力的な体制ができていたところである。担当した企画が肝試しと花火の夜に行うものであったため、夜遅くならないよう素早く行動することが求められた。しかし、悪天候のためなかなか計画通りにいかないことも多々あった。そのため肝試しは計画を大きく変更してからの実施だった。その際にも戸惑うことなくリーダーの指示の元、行動することが出来た。突然の変更にも混乱することなく行動できたが、全体の動きとしては素早く動いていなかった。その理由として、屋内で行うことになり少人数で回る事になったため効率よく回すことができなかった。また待機場所から場所が離れていたため連絡にロスがかかった。企画の人以外で自ら情報の連絡を受ける係りになってくれたり DVD のセッティング、操作をしてくれたり、自ら進んで協力をしてくれる人がいた。そのため大きな時間の狂いは出なかった。自発的に自分ができることを探す姿勢は団体行動の中での時間の効率化を図る面で大切な事だと思う。大人数で行動するメリットを殺すのではなく生かしていくことが大切である。例えば実習室での授業事前準備の際、団体で一つのことをするのではなく必要な人数を振り分けて効率よく作業を行うことで時間の間に準備を終えることができる。また、仕事を進んで見つけるという姿勢も必要だ。何をしてもよいのかわからないというようなときは他の人に指示を仰ぐこともひとつの手段である。団体行動でのメリットである準備時間が短くて済むということを人が多すぎて準備の邪魔になるというようなデメリットにしないことが重要である。デメリットにしないためにも団体行動では全体が協力的でなければならない。

今回の研修での企画を通してそのことについて学ぶことができた。また、団体行動をまとめる事の難しさを体感することができた。いかに指示を円滑に回すことができるのか、1人1人が協力的な体制にあるのかどうかを確かめる事が必要だ。

【ハヤシライス作り（二日目の夕食）】

◎良かったこと、頑張ったこと

班の全員で、前回の班の反省を話し合い、自分達はどのようにしたらいいのか、また、どうしたら上手く皆に伝えることができるのかというところに注意して活動できた。その結果、オリエンテーションの時には皆が注目して話を聞けるように形にもこだわり、大きな声で行動がイメージできるように、きちんと時間を交えて説明することができた。そして、話だけでは伝わりにくい部分があるため、LINEなども用いて、分からないことがないようにした。ハヤシライスを作り始めた時には、怪我や火傷をしないように皆で声をかけ合って気を付けた。その結果、怪我や火傷をした人がいなくて良かった。皆が声をかけ合うことにより、自然と親睦も深まり、笑い合う事ができた。1人1人が今、何をすればよいのかということを考えることができ、皆で楽しく協力してテキパキと行動することができた。片付けの時には、次の時間が迫っていたため、役割をふって行ったが、片付けの担当になっていた班以外の人達も手伝ってくれて、まだやっていないことを探し、スムーズに作業することができたため、この企画は成功することができたと思う。

◎気になったこと

施設の人とうまく確認がとれていなかったため、ご飯を炊いた後の釜をどのようにしたらよいか分からなかった。→事前に調べ、事前に確認することが大切だと考える。

【企画の目標達成ができたか】

『自分の役割に責任を持つ』という目標を達成するために、班ごとに役割を割り振り、班の皆と声をかけ合い、一緒に行動をし、責任を持ちながら親睦をはかれるようにした。また、その中でもご飯を炊く班は早く集まる必要があったため、各自早急にと集合時間を定めていなかったが、全員がいち早く集まり、作業にとりかかることができた。そのことから、皆が協力的、自主的になることができたと思った。また、目標であった『声をかけ合い助け合う』『自分で仕事を見つける』ことが達成できたため、準備、片付けが予定よりも早く終わり、その後の時間に余裕を持って行動できたと思う。そして、声をかけ合ったことによりクラスの雰囲気もよくなり、自然と笑顔が増えた。また、怪我や火傷がないように看護学生としての視野を広げて活動することができた。



日常の生活をできていることを感謝

6人6色

◎井田菖太 ○勝部美美

市川穂乃佳

川角早紀

高梨将

松尾純恵



私たちのグループはそうめん流しを担当した。そうめん流しに向けての目標・目的を「立ち位置などの声を掛け合い、スムーズに行動する」「楽しく食事ができるようにお互いを思いやる」「準備のときなどで自分が何をすべきか考えながら行動する」という3つにした。全体を通してみると目的・目標は達成できた。理由は、準備やそうめん流し当日に全員が食べられるように全体を見渡して、次どうしたらよいか考えることができた。

最初はみんな指示を待っていたが徐々に自分から気を使って声をかけあっていて自主性が見られた。また、楽しく食事をするために流す時に声をかけて盛り上げることができた。

成果はグループごとにもうまく回らなかったが全体から判断してすぐに取り止めることができた。その場に適応した判断するのは病院で働くようになってからも重要になっていくと思った。また、物品不足がないかなどの確認をすることで小さな変化に気付く力を養うことができた。患者のちょっとした動作に気が付くことで患者さんに安全・安楽を提供することができる。今後はそのようなところにも注意していきたい。また、反省点と次への課題は開始当初クラス全体の行動が遅く指示の出し方も悪かった。流していないそうめんを食べる人がいたのでなぜ流して食べたほうがいいのか根拠を踏まえて言うか、事前にアンケートなどをして普通にそうめんを食べたい人を把握しておくことやよかった。根拠を言うことによって相手に理解してもらう。それで先のことまで考えることができると思った。分からないと言われたことしかできないと思うので次指示をだすときはこのことに注意していきたいと思った。注意をするときに指示を出す人がリーダーか副リーダーに限定されていたのでグループのメンバーでも気づいた時にすぐ注意、または指示を出すべきだと思った。

今回の研修でグループをしてまとまりができたように思えた。なかなか話さない人とグループで行動することによってメンバーの内面がみえた。また、自分の強み、弱みも知るいい機会になった。グループが変わっても今回の研修を生かして次はもっといい活動にしていきたい。

お知らせ

オープンスクール第2回開催しました

日時：7月26日(土) 場所：看護学校

内容：小学生6名・中学生10名参加 高校生45名参加がありました。

当校では地域の子供たちが将来の職業を考える一助になるように小・中学生にも看護を伝えていきたいと思っております。また、このような取り組みは地域に対して少しは役立てるのかと考えており、今後も積極的に開校していきたいと考えています。

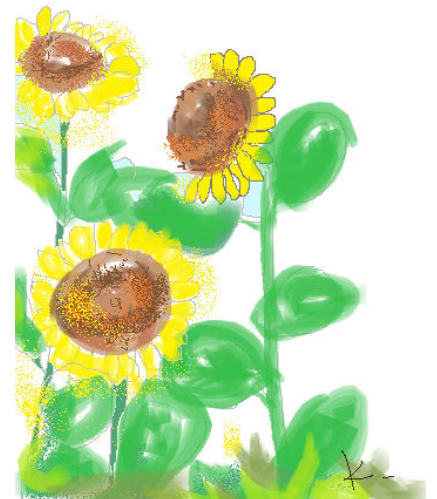
今後の予定

9月1日(月)	始業式
9月2日(火)	2年生老年看護実習Ⅰ・小児看護学実習Ⅰ実習開始 3年生7クール実習開始
9月22日(月)	看護師国家試験模擬試験
9月27日(土)	山陰医療マネジメント学会(浜田)1・2年生参加
10月18日(土)	学校祭1日目
・19日(日)	学校祭2日目・駅北フェスタ同時開催

編集後記


弥栄にあるふるさと体験村に1年生と2泊3日の研修に出かけました。浜田市から車で30分ほど山あいに入りトンネルをいくつか抜けると、夏は涼しく避暑地として、そして人々の安らぎの地としてもってこいの弥栄です。ふるさと体験村の古民家やログハウスに泊めてもらい、ヤマメのつかみ取りを体験したり、西陣織の工房として、32年間操業しておられる綿文さんを見学をさせて頂いたり、機織り体験までさせて頂きました。学生の活動の中で浜田市探検をし、浜田の意外な発見をさせて頂きました。

今回は1年生の課外宿泊研修の様子を臨時増刊号として発行することができました。人は創造力をもち、それを駆使して人間は文明を発展させてきました。自分の創造力を働かせ、自分にとっての生きた知識にしていく必要があります。創造力を駆使して全ての学びを自分の成長への糧としていきたいと思っております。創造力を課題にした1年生がどんな看護師になるか楽しみです。(KN)





オープンキャンパスや受験情報など詳しく
お問い合わせは

 0855-28-7788

浜田 看護学校

